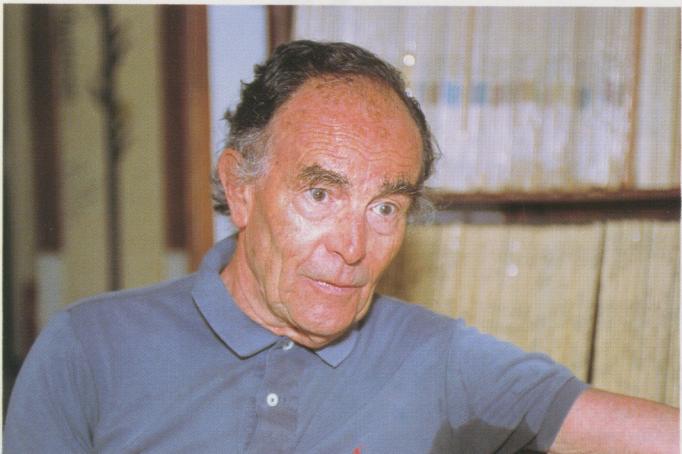


遙かルネッサンスにまでさかのばれば、イタリアは常に芸術とデザインの国だった。商業的なデザインにおいて、大きな成功を収めたこの国のデザインは、来たるべき次の世紀にはどんな方向へ向かうのだろうか？
世界的な活躍を続ける、イタリアンモダンを代表する二人のデザイナーに聞いてみた。

モダンリビング 独占インタビュー 1

MODERN LIVING. v. 12. PTT. 93

頂点を極めたモダン・デザインの巨匠 「マジストレッティ」という名の 時代・デザイン・クオリティ



PROFILE

ヴィコ・マジストレッティ ●1920年イタリア、ミラノに生まれる。1945年にミラノ工業大学建築科を卒業し、都市計画・建築・インダストリアルデザインや家具デザインの分野で活躍。カッシーナ社で作品を手がけ、家具デザイン界に大きな影響を与えた。12点もの作品が、ニューヨークにある近代美術館の永久収蔵品となっている。

VICO MAGISTRETTI

私はいかにシンプルにデザイン出来るか、ということを常に考えています。ただし私が言おうとする「シンプルさ」というものは、単純で安易な物の見方や考え方ではありません。「シンプルさ」を求めるということは、単純どころか逆にとても複雑なことなのです。シンプルなデザインの物を創るには、形や機能などあらゆる要素において手が抜けません。なぜならば、シンプルなものからは、その物が持つ良い点や悪い点が、様々な形でぐに答えを返してくるからです。

私のデザインコンセプトで最も重要なのは、この意味における「シンプルさ」なのです。デザインのアイデアは、どの様な形で生まれてくるのでしょうか？

もちろんアトリエで机に向かって考えている時もありますが、海外にいることも多い生活なので、どこにいる時でもデザインのことを考えているといえるでしょう。どちらかといえれば、生活の中いろいろなアイデアが浮かぶことの方が多いかもしれません。

生粹のミラノ人であるヴィコ・マジストレッティ氏は、イタリアンファニチャー、特にソファの分野においてイタリアンモダンの頂点にいるデザイナーといつても過言ではないでしょう。氏の創り出すデザインは、どこか人間味や温かみに溢れ、かつ先鋭的なモダニティを強烈に感じさせてくれます。氏を信仰するファンは世界中でいらっしゃいます。

そんな現代イタリアンモダンの巨匠、ヴィコ・マジストレッティ氏に、モダンリビングが独占インタビューを試みました。

まずは氏のデザインのコンセプトから。

【シン・フルさ】を求めるることは
単純どころか、逆に
とても複雑なことなんです

たとえば夜、ベッドに入つてから眠りにつくまでの間や、飛行機で移動している間など。そんな時には、すこさずメモを取つておきまます。私はインスピレーションを感じるタイプのデザイナーではないんですね。

50年を越えるデザイナー生活の中で、家具のことを知り尽くした感のあるマジストレッティ氏――。家具とは、使う人間にとつてどうあるべきなのでしょうか?

家具といふものは、統一性を持つていなければいけません。色や形など、それぞれに個性のある一定の統一感の中で、上手に融合した時に初めてその家具の良さが見い出せるのだと思います。

そして忘れてはならないのは、くつろぎを与える存在ということ。個性に走りすぎたり、極端に存在感のあるものは、私は好みません。人の目に主張しすぎないバランスが、とても重要だと思いますね。

インテリアをコーディネートする時、何を大切にしていますか?

家のボリューム感でしょ。その空間をどうしたら有効に生かすことができるか、この点だけは欠かせません。

現代のイタリアを語るうえで、デザインは欠くことの出来ない要素の一つ。氏を含めたイタリア人にとって、デザインとはどういうものなのでしょう?

とても大切なものです。デザインは私の仕事でもあるわけですから当然ですが、人生にとって生きいくうえで大変重要なものだと思っています。デザインを使って自分を表現できるし、デザインは創造であるから。



Maralungaマラルンガ／

1973年にデザインされ、時代を超えた驚嘆すべきモダニティを表現する作品として、ニューヨーク近代美術館に永久収蔵されている。マジストレッティを語る上で欠かせない、氏の代表的な作品。個々の背もたれが独立してハイ&ローバックに変わる。写真は2人掛け¥430,000。

Portovenereポルトヴェーネレ／
背もたれの高さに特徴のある、美しいフォルムを持ったソファ。イギリスの詩人バイロン、シェリー、キーツの3人がこぞって讃えた美しい入江の名前を冠するマジストレッティの代表作の一つ。写真は2人掛け¥450,000～。マラルンガと共にカッシーナ・インターデコール社。

21世紀への提案は、 手芸・職人芸のすばらしさや 大切さを見直すということ

私は常に精進するためにデザインを考えますし、それが大好きなんですね。大勢の人にとって、それがいくらかの価値があると信じて仕事をしていますから。イタリア人の生活や人生にとつて、デザインは本当に重要です。まさに芸術品と呼べるような意匠を、長い人類の歴史の中に数多く残してきたイタリアという国の誇りであり、彼ら一人々々の中に流れ受け継がれてきたものの結実が、現代のイタリアンモダンのフィロソフィといえるのでしょうか。果してこれからイタリアンモダンの行方とは――。

それは私にも判らない。だが私たちの人生が素晴らしいのは、未来を予測することが出来ないからこそ。何が起こるか判らない――。でも一つだけ、とても重要なことがあります。それは「眞の精進」をしていくこと。

随分と長い間、私たちが忘れてしまっていることを思い出さなければなりません。それは手工芸や職人芸の素晴らしさや大切さを見直すということ。これらに対する私たちの無知と無理解が、現在の悲しむべき「職人不在」の状況を生み、手工芸の将来への発展が望めなくなつてきました。またそうなつたことで、稀少価値が出て、価格ばかりが上がりがつていています。私たちイタリアのクリエイターは常に前進を続けて来られたのです。後ろを振り返る懷古趣味ではなく、辿つてきた道を支えてきたものの価値を見直すことが大切なことです。

次の世紀を明るい未来にするために、氏が提案するデザインは常に新しいイタリアンモダンを模索しているのかもしれません。



▲芦屋の街並みと海が見渡せ、夜は関西国際空港の美しい光も見えるという最高のロケーションに建つ喜多俊。もう一つのリビングである屋上には喜多さんデザインのイタリア・マジス社の折り畳み椅子、「ロンディネ」が置かれている。(扱い/ヤマギワリビナ本館)

イタリアンデザインの底力

イタリアンデザインのパワーはどこから生まれているんでしょう?

多分、イタリアはこれからも泉のようになれる。それはいい学校があるからとか、いい先生がいるからとか、いいデザイナーがいるからということではなく、イタリアの一般の人たちの暮らしぶりからすべてのデザインが生まれています。

イタリアの人たちの日常の暮らしというものが、常に洗練されたデザインを必要としているんです。例えば住まい。彼らにとって家はいちばん大切なところです。ただ家族だけで住むというより、むしろ住まいは友人たちに開放されていて、いわゆるサロンになつて

います。そういう住まいには必然的に哈味された家具や食器が調えられるようになります。

ファッショントリオでも靴やバッグ、アクセサリーをコーディネートするように、住まいでもイタリアのコーディネートが重要なになってきます。こうしたイタリアの暮らしぶりがベースになって、新しいデザインが発生してきます。あくまでもデザイン先行でなく、日常生活の道具として、生活の中から生まれてくるデザインです。そういった意味からもイタリアのデザインの力はこれからも変わることはないと思います。

また、イタリアのデザインの底力という点では、衣食住のバランスのよさにあるといえます。本来、デザインとはそういうものじやな

N.Y.近代美術館の「パーマネントコレクション」になつて、「ワインクチエア」から20年ぶりに寝椅子に変身するイージーチェア、「DODO」を今年のミラノサローネで発表して話題になった喜多俊之さん。プロダクトデザイナーの一人です。

今回は苦楽園の自宅を訪ね、最近のデザイン傾向、イタリアンデザインの魅力を語っていただきました。

喜多俊之さんに聞く

▼360度回転する機能的な椅子、イタリア、アーデーレC社のCanta。アームがヘッドレストに変化する。カバーは掛け替える。(扱い/秀光ONE)



◆◆◆◆◆ ホームシアター、ホームオフィス、高齢化社会の3つのコンセプトから開発したアーデーレC社のイージーチェア「DODO」は98年のミラノサローネで大好評で海外のインテリア誌にも大きく取り上げられた。この椅子はコンピューター関係のストレスの多い仕事用に、従来の人間工学的なアプローチのデザインでなく、精神的な面を重視したデザインをしている。回転式で、レバーワーを引くと脚が出て、背もたれはリクライニング。ヘッドレストも内蔵している。日本では今秋発売予定。



イタリアではモダンデザインというのは、いつごろから定着したんですか? イタリアのデザインは先程もお話ししたように一般の人々の暮らしに支えられています。昔からデザインに関心の高い人たちがイタリアには多いんですが、1960年代には今のように一般の人たちがデザインに関心を持つようになりました。

僕が初めてイタリアに渡ったのは1969年ですが、その当時でもすでにインテリアに関するベースが出来てきました。そのうちの一つが住宅事情です。政府が、狭い住宅を廢止し、広い住宅を確保するために民間主導型の住宅づくりに政策変更しました。それによって衣食住のバランスもとれ、並行してデザインというものが台頭してきたわけです。システムキッチンなども60年代には、一般家庭にほぼ行き渡っていました。

イタリアの大学にはインテリア学科というものがいると聞きましたが?

インテリアデザインを教える学校もごく最近出来ましたが、そういう意味で日本とはちょっと違う公式でデザインが生まれてきました。本来、デザインとはそういうものじやな

やれをし、居心地のよい家に友達を呼んでおしゃべりを楽しむ。これはイタリアの伝統的なライフスタイルです。流行のファッショングも住まいがあつてこそ生まれるものなのです。外出するための服というより家で着るための服が発達しているんですね。よその家に行く、よそから人が来る。だからアルマーニに着替える。アルマーニが売れるというのはそういうことなんですね。

イタリアではモダンデザインというのは、いつごろから定着したんですか? イタリアのデザインは先程もお話ししたように一般の人々の暮らしに支えられています。昔からデザインに関心の高い人たちがイタリアには多いんですが、1960年代には今のように一般の人たちがデザインに関心を持つようになりました。